

とちぶん会報

No.56

2019 年 7 月 1 日

栃木県文芸家協会 発行人 小林 守城
事務局／栃木県下都賀郡壬生町中央町 16-18 三上博史 方
〒321-0226 TEL090-9318-2492

協会公式ホームページ・Facebook を開設

4 月 1 日、当初の予定どおり栃木県文芸家協会の公式ホームページ及び Facebook が開設されました。画面はスマホ対応のものとし、トップページの写真は、総合文芸誌「朝明」をイメージしたものです。またコンテンツの構成は、会員からの意見・要望を取り入れながら、文芸団体としての必要十分なコンテンツを揃えたものになっています。お知らせ欄は、ページビュー数を高めるために概ね毎週 1 回以上の更新・情報提供に努めていく考えです。

公式 Facebook はお知らせ欄に連動して投稿の更新を図っていき、アトラクティブに画像等を積極的に盛り込んでいきたいと考えています。

今後の管理・運用について、またコンテンツの充実を図るために、会員からの意見・情報提供を広く求めます。よろしくご協力ください。

今年度役員会、総会・懇親会を開催

平成 31 年度栃木県文芸家協会役員会が、4 月 16 日(火)午後 1 時 30 分からホテル丸治[宇都宮市]において開催されました。小林会長が病気により欠席となり、福田副会長が急遽会長代行として議事進行を務めました。役員 19 名のうち 12 名が出席いたしました。

審議事項の「令和元年度栃木県文芸家協会総会審議案件について」、「協会ホームページ開設に伴う総合文芸誌「朝明」の電子化について」及び報告事項については、事務局長、編集委員長からそれぞれ説明がなされ、審議のうえ了承されました。

令和元年度栃木県文芸家協会総会が、5 月 19 日(日)午後 1 時 30 分からホテル丸治[宇都宮市]において開催されました。小林会長が病気により欠席となり、福田副会長が会長代行として議事進行を務めました。26 名の会員が出席いたしました。

審議事項の①平成 30 年度栃木県文芸家協会事業報告、②平成 30 年度栃木県文芸家協会収支決算報告、③令和元年度栃木県文芸家協会事業計画、④令和元年度栃木県文芸家協会収支予算の 4 件については、事務局からの説明があり、審議のうえすべて承認されました。⑤協会ホームページ開設に伴う総合文芸誌朝明の電子化(インターネット公開)については、朝明編集委員長から説明があり、了承されました。

その他として、今年度事業計画に基づいて実施される夏季講演会、懇親旅行、朝明第 8 号の編集方針について説明がありました。

なお今回の総会配付資料は、協会ホームページにおいて会員限定で閲覧可能となっています。総会を欠席された方は是非ご覧になってください。

総会終了後に開催された懇親会には 23 名の参加者があり、和やかな雰囲気の中で歓談が進み、楽しく会員間の交流が図られました。これらに係る記録写真は、協会ホームページに掲載されています。

第 1 回編集会議を開催・『朝明』第 8 号発刊へ

6 月 20 日(木)開催の第 1 回編集会議において、第 8 号の原稿提出要領が決定しました。今回の特集テーマ「令和一捨てられるもの捨てられないもの」です。要領の内容は前回とほぼ同じですが、今号から冊子体の発行の他に電子化(PDF)も図り、第 9 号の発行後(令和 2 年 12 月)、協会ホームページに全文アップロードします。ご注意ください。

作品の提出期限は 9 月末日です。別添要領に基づいて作成・提出してください。

夏季講演会の開催が決定・講師は高杉治憲先生

本年度の夏季講演会は、講師に当協会副会長の高杉治憲先生をお迎えして以下のとおり開催することとなりました。会員の積極的な参加をお願いいたします。

- 日 時 令和元年8月18日(日) 午後1時30分～2時40分
- 会 場 ホテル丸治[宇都宮市泉町1-22/TEL 028-621-2211]
- 講 師 高杉 治憲先生
- 演 題 「負に導かれ 生かされて」

* 講師紹介／本名 篠崎 暢宏。昭和21年生まれ。佐野市出身。立教大学法学部卒業。

職歴：総合建設業(株)篠崎組及び関係子会社2社の代表取締役社長、(株)カネス(佐野ゴルフクラブ・佐野及び小山「やすらぎの湯」・SGCスポーツクラブ等を創業・経営)代表取締役社長を歴任。現在、那須八溝物産株式会社(那須小川ゴルフクラブ、南平台温泉ホテル)代表取締役社長兼理事長。

- 懇親会 講演会終了後、午後2時45分から同ホテルにて暑気払いを兼ねた懇親会を開催します。

・会費5,000円(当日支払い)

※ 同封した出欠の返信ハガキを8月13日(火)までに事務局あて必ず郵送してください。

※ 会員の友人・知人で講演会・懇親会へ参加したい方は、会員から事務局に申し出てください。

『創作への志』 会員通信 No.14 短歌部門 福澤 悦子

八十年生きたら人生一炊の夢と括りて嘯くもよし

いつからか、大切な問題をはぐらかしてみたくなる癖が付いてしまいましたが、原点に戻り真剣に考えてみます。

短歌という短詩型に携ってほぼ五十年、歌を作る営みとは瞬間瞬間の心の動きを言葉に定着させる作業だと思っています。感受性を磨き、美しい感動を歌として定着させ続けること、それが自らの生の軌跡を綴ることに繋がっていると思っています。

§ 寄贈書籍の紹介 §

- 「きのうはどこに」大出京子著／発行所・しもつけの心出版／発行日・2019年3月30日[著者からの寄贈]
 - ・当協会発行の総合文芸誌「朝明」等に発表した随筆作品49編を収載したものである。211ページ。
- 「鳥山短歌会 二十周年記念合同歌集」発行所・鳥山短歌会／発行日・平成31年2月[福澤悦子会員からの寄贈]
 - ・会員12名の自作25首を収載したもの。今回の合同歌集出版は、同会が平成19年10月に発行した八周年記念合同歌集以来のものである。
- 「歌集 ゆるりと行いかな」(朔日叢書第106篇)永島道夫著／発行・公益財団法人角川文化振興財団／発行日2019年5月25日[著者からの寄贈]
 - ・著者の第五歌集。前歌集「石うづくまる」以降、平成30年12月までに「朔日」及び総合誌等に発表した作品422首が収められている。

§ 新会員紹介 §

- ・川柳部門 柳岡 睦子[茂木町]
- ・随筆部門 水野 弥彦[矢板市]
- ・俳句部門 野乃かさね[矢板市]
- ・短歌部門 大島 孝子[矢板市]

* ∞ * 事務局通信 * ∞ *

ホームページが無事出来上がりました。そもそもは会員数を増加させるための広報活動の一手段として話が湧いてきた面がありますが、ネットによる情報化社会においては、ホームページのみならずSNSを含め、情報発信ツールとしてこれらを活用することは最早常識のことです。ある意味やっとう平均的な土俵に乗った訳で、これからが会員数増加へ向けた広報強化の正念場になります。今後の協会運営の安定化のために頑張りましょう。(三上)